

令和 2 年度

学校教育目標

●

学校経営方針

京都市立向島秀蓮小中学校

I 教育理念と校訓

(1) 教育理念

【豊かな人間性を育み、人間力を高める】

向島秀蓮小中学校は、「未来を担う子どもたちのために新しい学校の創設を」との地域や保護者の願いのもと、9年間の学びと育ちのつながりを一つにした新しい施設一体型の「義務教育学校」である。

地域の人々の願いや協力によって支えられる本校教育においては、地域の人々と連携し、共に地域の子どもたちを育てていくという使命感をもって、教育活動を地域全体で推進していくことが大切になる。義務教育学校として、新たに本校の教育が発展していくために、向島地域の歴史や取組、地域住民の学校への思いを受け継ぎ、家庭・地域社会との連携・協力により、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「変える・変わる そして輝く」のコンセプトのもとに「学校が育つ 地域が育つ 人が育つ」学校教育を推進していかなくてはならない。

社会に目を向けると、子どもたちが生き抜いていくこれからの社会は、IoTや人工知能等の情報技術の進展やグローバル化といった変化が人間の予測を超えて急速に進展していくと言われている。未来を担う子どもたちが、こういった社会変化の中にあっても、高い志や意欲をもった自立した人間として自分と社会の豊かな未来を創造していく力を育むことが求められている。

本校の教育においても、10年後、20年後の社会情勢を鑑みながら、「意欲をもって自ら学び、考え、表現する力」を身に付けるための学びを軸としつつ、「一人一人の未来を拓く力」の育成を図っていかなくてはならない。また、社会がいかに目まぐるしく変化する時代になったとしても、生きていく上で大切にしたいことを、自らを律しつつ、他者と協働し、たくましく生きるという「人としての在り方」を実現させることと考えている。そのために、「誠実さ・謙虚さ・思いやり・感謝・純粋な心・挫折に負けない心」といった豊かな人間性を育むことを教育の柱とし、その人間性を持って、社会変化に対応できる「知・徳・体」のバランスのとれた人間力を高める教育を充実させていかなくてはならない。

最後に、義務教育学校として開校した本校では、9年間という今までにない長く連続した期間の中で、子どもたちの学びと育ちをつなげていくため、授業の質を高めることをねらいとした新学習指導要領の教育改革の中で果たす役割は大きく、義務教育9年間を見通したカリキュラムの系統的な指導を実践し、心豊かで、学び続ける姿勢を持った人間の育成を目指していく。そして、どのように時代が変化しようとも一人一人が豊かに生き抜いていくために「豊かな人間性を育み、人間力を高める」という教育理念を掲げ、その理念を創造・実現させていくためには、本校教育に携わるすべての人が使命感と情熱を持ち続けていくことが大切になる。

(2) 校 訓

【「自立」 「清心」 「貢献」】

自立：①主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる人間の育成

②困難を乗り越えるたくましい心を持ち、他者と助け合いながら協働できる人間の育成

清心：①美しい蓮の花のように純粋で清らかな心を育み、誠実・謙虚で思いやりのある人間の育成

貢献：①地域や社会に向き合い関わり合い、自己実現を目指すとともに、社会のため人のために行動できる人間の育成

②「人とつながり、ともに学び、支え合う力」を高め、より良い自分、より良い社会の実現のため自ら考えて行動することができる人間の育成

Ⅱ 教育目標とめざす姿

(1) 教育目標と資質能力

一人一人の人間性を高め、未来を拓く力の育成

<未来を拓く力=9年間で身につけたい資質・能力>

- ・考える力 = ・主体的に課題について学び、自らの考えを持つことができる。
- ・発信する力 = ・自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
- ・コミュニケーション力 = ・考えや立場の違いを理解し、自分の考えを論理的に話すなど表現することができる。
= ・相手の考えを理解して受け入れたりして、共通理解を深めることができる。
- ・折れない力 = ・失敗を恐れず、挑戦し続けるたくましさを身に付ける。
- ・多様性を受容する力 = ・相手を思いやれるやさしさを身に付ける。
- ・自律的活動力 = ・自分を知り、自らを律する力を身に付け、誠実かつ実直に、強い正義感を持って行動できる。

秀蓮 PRIDE プロジェクト

- ・向島秀蓮の児童生徒であることと、その学び舎における9年間のひたむきな学びの中から得られる自信と誇りを育み、未来を拓く力の育成を図る教育構想の総称

「未来を拓く力」を育成するために重点化した6つの資質・能力は、自立した社会人としての必要な基礎力でもあり、どのように時代が変化しようとも豊かに生き抜いていくために必要な力と考える。また、9年間を見通した「学びのつながり」「育ちのつながり」「人のつながり」の3つのつながりを核としたカリキュラムで学び、「学びを習得していくプロセス」や「学校教育全般の中においてひたむきに取り組む過程」の中で、結果として身に付くものとしてとらえる。

(2) 目指す子ども像

卒業までに 実現させたい姿	ひたむきに 学び続ける姿	たくましく 誠実な姿	豊かに 生き合う姿
ビジョンステージ	ひたむきに学び続ける姿	たくましく誠実な姿	豊かに生き合う姿
チームステージ	協力し学び合う姿	挑戦し高め合う姿	豊かにかかわり合う姿
ベーシックステージ	いきいき学ぶ姿	やさしくすなおな姿	なかよくつながる姿

(3) 目指す学校像

向島秀蓮小中学校に対する地域・保護者そして生徒の期待感は大い。反面全く新しいシステムの学校であり、学校に対する不安もある。生徒一人一人の良さが生かされ、一人一人の生徒に「居場所」があり、励まし合える仲間がいるなど「温かさ」を合言葉とした学校・学級づくりを通して生徒がいつも「通いたい」と思える学校の実現を目指し、地域・保護者の期待に答える「通わせたい、信頼のある学校」の実現が大切になる。

- ・「なりたい自分」と「確かな学び」をつなぐ小中学校
- ・豊かな心を育み、一人一人が大切にされた温かな小中学校
- ・家庭、地域とつながり、ともに育つ小中学校

(4) 目指す教職員像

- ・これまでにない義務教育学校としての教職員体制を構築していくために、小中の違いを理解し、互いを思いやること、そして互いから学ぼうとする意識の変革を図る。「変える、変わる」を

自らが体現しようとする教職員。

- ・「教育は人なり」。人は人から学ぶものであり、教育は人とのかかわり合いの中で育つもの。情熱と使命感を持って生徒に向き合い、向上心を持って指導できるよう学び続けることが大切。
- ・子どもに良い教育を提供していくためには、提供者である教職員集団の礎が温かく協力的な人間関係でなくてはならない。職場での出会いを大切にし、お互いの良さを認め合い、明るく楽しく、意欲と活気にあふれ、共に語り合い、仕事の厳しさを共有し、そして協力・助けあう。全教職員が組織として活動できる同僚性の高い人間関係こそが「いい学校」の原点となる。

- ・ 目指す子ども像の実現に向けて切磋琢磨できる教職員集団
- ・ 「情熱」「使命感」「責任感」と子どもへの深い愛情を持って教育実践できる教職員集団
- ・ 互いを思いやれる同僚性の高い「チーム秀蓮」としての教職員集団

(5) 生徒・教職員共通スローガン

教育目標および目指す姿の実現に向け、生徒と教職員の共通のスローガンを次のように掲げる。

「果敢に挑戦、知らない自分に会いに行け！」

Ⅲ 学校経営方針

目指す学校、教職員像の体現化を図ることを最も重要な要素として、進取の気風を確立させ、自ら課題意識を持ち、創意を持って解決に努め、児童生徒も教職員もともに成長することを目指す。

(1) 学校運営

- ・「学力向上」を根幹に据えて学校経営を進める。
- ・義務教育学校という新たな学校における目標等を達成していくために、研修や教職員の連携、管理職とのコミュニケーションを図りながら、「1年から9年で一つの学校である」ことの教職員の意識改革を図り、「チーム秀蓮」として組織的に対応していく。
- ・全教職員が学校運営計画に参画し、魅力ある学校づくりをすすめる。
- ・ミドルリーダーを中心とした義務教育学校としての創造的、組織的学校運営を図る。
- ・アンケートや学校評価等を軸としたPDCAサイクルを確立させ、教育課題を明確にしながら改善を図っていく。
- ・校務の効率化、業務改善の視点をもって学校運営を行い、働き方改革を推進する。
- ・小中学校運営協議会を軸に保護者・地域との連携を密にし、協働しながら社会に開かれた学校教育を推進する。
- ・学校だよりやHP、学校公開などを積極的に活用し、教育活動を地域、保護者に発信する。

(2) 豊かな心

- ・「人間性を高める」視点を実現させるために、人権教育や道徳教育を推進し、「いのち」の大切さや人権尊重の理念を正しく理解させ、「子どもの命を守りきる」教育活動を全教職員で進める。また、道徳教育を要とし、「考え議論する道徳」の実践を通して、子どもたちの相互理解を深め、心豊かな人間を育成する。

(3) 学習指導

- ・生徒が豊かな未来を築いていくためには、確かな学びを充実させることが大切であり、そのために、授業規律の徹底を図り、すべての生徒に基礎・基本をしっかりと身に付けさせ、自ら学ぶ意欲を高めるなどの「学びの基礎」を徹底して固めていく。
- ・「自ら学ぶ意欲」を高めていくために課題解決学習を軸に授業改善や指導力の向上に努め、自学自習の体得を目指す。
- ・「授業が分かれば、勉強は楽しい」をモットーに全教職員が同じ目標に向かい、授業改善や指

導力の向上に努め、切磋琢磨し、徹底して取り組むことを学校全体で共通認識していく。キーワードは、「共有」と「徹底」

- ・一人一人の個性・能力を伸ばすために、日々の生徒の学習状況を評価し、学習内容や指導方法の改善に活かし、授業の質の向上を図る。

(4) 生徒指導

- ・「自尊感情」を高めることを中心に据えて教育活動を行う。「北風」ではなく「太陽」となる。
- ・生徒理解を基本とし、正しい言動がとれる生徒の育成のため、一人一人の心に寄り添った丁寧な指導・支援を心がける。(生徒を理解しようとする教員の意欲的な姿勢が生徒・保護者の心を動かし、信頼関係の基礎となる。)
- ・9年間を通した連続的な(つながりのある)生徒指導を軸に、挨拶に始まる礼儀作法や言葉づかい等のしつけ、時間管理や生活習慣の指導、人間としての生き方やより良い学校生活を過ごす上で必要なルールや行動様式の在り方をあらゆる場面で粘り強く指導していくことが不可欠であり、生徒の視点に立ちながら、学年を越えて全教職員が一体となって指導していく。
- ・生徒会決議の「3い追放」を引き継ぎ、「いじめのない安心・安全な学校」を目指した予防的な指導を推進していく。
- ・学校教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感・他者への思いやりを持ち、自ら進んで考え判断し、責任を持って誠実に実行できる力を高める。
- ・児童生徒の社会性を育成し、自己実現が図れるよう、系統的・計画的な指導、支援を行う。
(学校生活の基礎・基本の徹底)
- ・生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を活かした学級経営・授業づくりを推進し、自己教育力を高める。

(5) 健やかな体

- ・睡眠に関わる取組を重点化する。
- ・本校で目指す「人間力」のすべての基盤は健やかな体と心の調和であり、日常的に生活習慣や体力の向上を目指した取組の充実を図る。

(6) 総合育成支援教育

- ・総合育成支援教育の視点から全教職員の理解と認識を深め、学習や生活に困りのある生徒の発達を育んでいくよう特性に応じた多様な学習へのアクセスを整えながら教育実践を進める。
- ・育成学級における生徒一人一人の個性・資質・能力を最大限に引き出し、学習や生活習慣の定着を図るとともに、自立した生活ができるように指導する。また、交流学級など連携を深め、児童生徒間の連帯感を高め、共生社会に向け、共に学び合う意識を育成する。